

会 議 名	令和7年度(2025年度) 第4回八王子市食育推進会議
日 時	令和7年10月9日(木) 14時30分～16時00分
場 所	八王子市保健所4階 401会議室
出席者氏名	委 員 葛西 真弓、野下 清子、松本 賢一、峰尾 幸代、岡部 貴代、岩瀬 政子、小池 さとみ、内藤 里美、田川 富美子、町田 淳一、三宅 久美
	事 務 局 田中保健所長、志村健康づくり推進課長、仲宗根主査、萩原主任、上地主事
	オブザーバー 黒田農林課長、山崎主査
欠 席 者 氏 名	加藤 直樹、勝田 芳子、浦野 真沙子、松久保 雅和、篠原 由美子
報 告	第4期八王子市食育推進計画の素案(案)について
公開・非公開の別	公開
非 公 開 理 由	
傍 聴 人 の 数	なし
配 付 資 料 名	次第 【資料1】 第4期八王子市食育推進計画の素案(案)について 【資料2】 第4期八王子市食育推進計画「施策の展開」(案) ご意見シート

## 【会議の内容】

### 《開会》

発言者	内容
健康づくり推進課長	<p>定刻となりましたので、ただいまより令和7年度第4回八王子市食育推進会議を開催いたします。構成員の皆様におかれましては、大変お忙しい中、ご出席をいただき、誠にありがとうございます。本推進会議は設置要綱にもございますように、八王子市における食育に関する取り組みを総合的な見地から協議、意見交換を行う場としております。また、本食育推進会議は原則、公開となっていることから、会議録作成のため録音をさせていただきますので、ご了承ください。</p> <p>なお議事録については、議事録案を作成し、皆様に内容の確認を行った後、本市のホームページで公開しております。議事録における構成員の発言につきましては、これまでと同様に構成員の皆様の個人名は記載せず、「構成員」と表記させていただきます。</p> <p>本日の傍聴人はいないのでこのまま進行します。</p> <p>それでは、会議の開催に先立ち、保健所長の田中よりご挨拶をさせていただきます。</p>
座長	<p>八王子市保健所長の田中でございます。</p> <p>皆様におかれましては、大変お忙しい中、ご出席をいただき、誠にありがとうございます。本日は、構成員の皆様と総合的な視点での意見交換を行いたいと思っておりますので、皆様</p>

	から積極的なご発言をいただきますようお願いいたします。どうぞよろしくお願いいたします。
健康づくり推進課長	ここから、八王子市食育推進会議設置要綱、第5条により、会議の進行は保健所長にお願いします。
座長	それでは、議事に入ります。議事 1「第4期八王子市食育推進計画の素案(案)について」、事務局より説明をお願いします。
事務局	<p>「第4期八王子市食育推進計画」の素案(案)について説明をさせていただきます。</p> <p>これまでの計画策定の経過を簡単に説明します。まずアンケート調査として市民意識調査を令和6年10月に18歳から74歳までの市民 2000 名に対して行っております。また、子ども意識調査として、幼稚園保育園小学生の保護者、中学2年生、高校2年生自身に行っております。意見聴取の場としまして、食育推進会議の開催、さらに初めての試みであるワークショップを開催してきました。前回の第3回食育推進会議ではワークショップと合同開催で行いましたので、構成員の皆様は、ワークショップメンバーが検討してきた八王子市の食の課題やその解決に向けた取組アイデアについて、報告を行いました。繰り返しになりますが、ワークショップには、民間企業や団体に属する方や、栄養士団体、食に関心を持つ大学生、行政職員など 21 名によって構成されております。ワークショップにおいて提案された取組アイデアとしては、朝食摂取や地産地消に関するものや、より市民の方に情報が届くためにはどのような発信手段がよいのか等についてのアイデアが多く出されました。</p> <p>続いて、本計画の位置づけについて改めて確認をいたします。八王子未来デザイン2040のもとに、「健康」と「医療」2つの視点を併せもつ「健康医療計画」があり、この「健康医療計画」を補完する計画として4つの個別計画が紐づいております。そのうちの 하나가「食育推進計画」となっております。なお、食育推進計画は、食育基本法や、国の食育推進基本計画、東京都の食育推進計画と整合性を図っています。計画の概要については記載の通りですが、健康医療計画に基づく分野別計画であり、計画期間は令和8年から11年までの4年間としています。上位計画の八王子健康医療計画と終了年度を合わせる形としております。法的な位置づけとしては食育基本法に基づく市町村計画となっております。将来像と基本目標は第1期計画から継承しております。</p> <p>次に、計画の体系の考え方についてご説明します。第1期食育推進計画(平成23年)から継承している「将来像」である「食を大切に人々を育むまち」を目指して、「将来像」を市の最上位計画である未来デザイン2040の計画満了年度である2040年に「将来像」を実現させるために、必要な食育推進の取組を導き出すというバックキャストの考え方を基本としています。横軸を時間軸ととらえていただき、まずは、第4期計画の満了年度である2029年に達成すべき3つの目標の実現を目指していきます。目標を達成するためのあるべき水準と、現在の達成度とのギャップを埋めるための戦略として第4期食育推進計画に4つの視点を定めました。4つの戦略については、市民意識調査・子ども意識調査やワークショップの結果、国の動向や市を取り巻く環境等を踏まえ、市の食育に関わる「強み」「弱み」「機会」「脅威」を抽出し、4つの戦略として立案しています。①「強みを活かし、強化させる」戦略(SO 戦略)として、「食と環境の調和の推進」、②「強みを活かし、脅威に対応する」戦略(ST 戦略)として「地域や関係者がつながる食育の推進」、③「弱みを克服し、機会に変える」戦略(WO 戦略)として「生涯を通じた心身の健康を支える食育の推進」、そして、④「弱みを克服し、脅威を回避する」戦略(WT 戦略)として「食の安全・安心の推進」を立案しました。</p> <p>こちらの図は、第4期食育推進計画を体系図として示したものになります。計画全体において最も上位の「目指すべき理想の姿」を将来像とし、「基本目標」は、「将来像」を実現するための</p>

中核的な到達点と捉え、3つの目標が位置づけられています。さらに、「基本目標」を実現させるための道筋として「4つの戦略」を示しています。そして、戦略を具体化し、各所管ごとの取組や事業をまとめたものとして「9つの推進の軸」を定めています。これら「9つの推進の軸」は、ライフコースアプローチの考え方にに基づき、幼年期から更年期に至るまでの全てのライフステージにおいて、切れ目なく、誰一人取り残さない取組として推進していく表現を「推進の軸」と各ライフステージが交差する模様で表現しております。さらに、第4期計画における新たな視点として「共創による食育」を推進していきます。こちらは、各所管の取組を分野横断的に捉え取組んでいくものとしております。後程詳しくご説明いたします。第1期では「食育を知り、広めること」、第2期では、「食育が根付くこと」、第3期では「誰もが食育を実践できること」を目指してきました。これを踏まえ、第4期では、“「市民」を中心にみんなで推進する施策”と位置付け、「市民一人ひとり＝あなたと一緒に八王子の未来へ食育のバトンをつないでいく」こと、ライフコースアプローチの観点から、「9つの推進の軸＝よこ糸」と考え、「ライフステージ＝たて糸」を織り込むことで、食育を点でとらえるのではなく、面で考えることで、関連する団体や物事をより包括的にとらえ、未来につなげていく時期とします。

続いて、評価指標についてです。施策体系と同じような表現でお示ししております。三角形の土台の部分からご説明します。一番下の数字は、各所管課の取組数を示しております。各所管ごとの取組については、それぞれに活動指標を定めています。これらの取組を着実に実施することにより、中間的な成果(アウトカム)として、「9つの推進の軸」ごとに設定された評価指標の達成を目指します。さらに、最終的な成果(アウトカム)として、各基本目標に定められた成果指標を達成することで、将来像の実現につながると考えています。

次に、「共創による食育」についてご説明させていただきます。ワークショップでの取組アイデアや意識調査の結果、国の動向を踏まえ、ともに織りなす食の未来をコンセプトに「共創による食育」に取組めます。「共創」とは、企業・大学等との対話と共感からともに考え、新たな解決策を作り出すことです。「共創の食育」に取り組むことで、行政単独では対応が難しい課題についても、それぞれの強みを活かすことが可能になります。また企画段階から参画することで、「与えられた食育」から「共に作り上げる食育」へと発展し、食育を自分ごととして捉えやすくなるという大きなメリットも挙げられます。

「共創による食育」として、「朝ごはんがあなたの未来を育てる」をテーマに朝食摂取に関して、3つの取組に挑戦します。「こどもが朝食摂取できる機会の拡充」「大学生が朝食摂取できる機会の創設」「就業者が朝食摂取できる機会の創設」です。また、限られた公費に依存するのではなく、寄付金や協賛金などの資金を積極的に活用し、持続可能な事業運営を実現するためのあらたな仕組みの構築の検討を勧めます。これらの取組により、子どもたちの学習意欲の向上や生活困窮世帯の経済的不安の軽減をはかります。また、大学生への取組として大学と地域の連携強化や大学生の経済的負担の軽減をはかります。また就業者に対する支援により、労働生産性の向上や事業所における健康経営の実践につながるものとします。

同様に、共創による食育として「八王子のおいしい！をもっと身近に」をテーマに地産地消に関しても、3つの取組に挑戦します。「子供の体験学習の充実」「大学生が農業体験できる機会の創設」「地元農産物を活かしたまちづくり」です。それらの取組を行うための手法は朝食摂取の取組と同様です。特に地産地消においては、「大学生が農業体験をできる機会の創設」というアイデアがワークショップでも多くあがっており、実現に向けて現在、取組を進めていきます。またソフト面だけでなくハード面への取組として「まちづくり」にも生かした展開を検討しております。道の駅滝山やまちの駅八王子「ちとせや」といった、八王子産の農産物を販売する場所もあ

り、まちづくりに絡めた展開を行うことで、観光交流の機会創出や地域経済の活性化につなげていきたいと考えております。

続いて、計画の冊子の構成についてです。第1章で総論、第2章で各論について記載する2章構成となっております。さらに資料編として用語集などをまとめたものとしております。

ここからは、第2章 各論の「施策の展開」ページについて説明します。資料2として、お手元にご用意させていただいております。

9つの推進の軸ごとに左に「概要ページ」と右側に「各所管課の取組一覧」が掲載されます。ページは「9つの推進の軸」ごとに概要を記載しています。こちらのページの見方について説明します。推進の軸ごとに本計画における戦略の位置づけを記載しています。「現状と課題」「方向性」については、食育に関する意識調査の結果、社会情勢や本市の食育における特色や体制などを鑑みて方向性を記載しております。また、上のマークは国連サミットで採択された、2030年までに達成を目指す国際目標として定められている17のゴールのうち、取組によって達成に貢献するゴールを記載しています。さらに、横の青と緑の丸マークについては、「八王子未来デザイン 2040」において、変革のキーワードとして定められている「DX(デジタルトランスフォーメーション:デジタル技術を活用して新たな価値を創出すること)」「カーボンニュートラル」の実現に貢献するものを記載しています。そして推進の軸ごとに「市民の取組」「地域・団体の取組」を掲げることで実効性のある計画を目指します。各取組については、ワークショップであがった取組アイデアも掲載しており、それがわかるように星印で示しております。

各所管課の取組に関する活動指標(アウトプット)を記載しています。また取組の対象となるライフステージに丸印がついております。推進の軸ごとの取組を全体で見たとき、全てのライフコース対して、丸印がつくように組み立てになっております。所管毎に対象とする年代は違っても、つなげて見ることで、どの年代に対しても、何かしらの取組が実施されている形となっております。

こちらは、各論の施策の展開でお示ししている各所管の取組を、「9つの推進の軸」ごとに取り組数をまとめたものになります。第4期は97の取組のうち33個が新たな取組となっております。

こちらは以前の第1回推進会議でもご説明したスライドになりますが本市の特色である豊富な食資源を活用することで八王子らしい食育を推進していきたいと思っております。中でも、本市に5か所ある給食センターでは、給食の提供だけでなく、地域の方も参加できる料理教室を行うなど、食育の場としても活用されています。また、東京都内で唯一の道の駅である「道の駅八王子滝山」が文化庁の食文化ミュージアムに認定され、食の情報の発信拠点となることが期待されます。豊富な農作物を活かした所管の取組として観光課の「夕焼け小焼けふれあいの里」の施設の環境を活かした「田植え、稲刈り、餅つき」の一連のコメ作り体験やニジマス掴み、焼き体験など食に関わるプログラムがあります。5つの給食センターの活用においては、令和6年に市内5つの給食センターが完成し、親子料理教室の実施や災害時の機能を兼ね備えた施設として、地域の方にも開かれた食の拠点として機能しております。「行政栄養士」の取組については、現在職員栄養士が103名在籍しており、食の課題解決に向けて、共通認識をもって組織横断的な取組を行うことで、市の食育を推進していく原動力になると思います。「伝統的な食文化」の取組については、大学との連携事業の一つとして、大学生が考案した米粉で作った「食べられるスプーン」を提供するなどSDGsの視点を持った、給食提供を行うといった取組があります。食品ロスに関しては、資源循環課で行っている「食品ロス削減に向けた取組としてフードシェアリングサービスである「タベスケハチオウジ」のアプリを活用し、お店と消費者をつなげる

	<p>取組などが挙げられます。また、「小児肥満対応」の取組については、肥満が疑われる場合は、栄養士や保健師による個別相談を行ったりして、なるべく早い時期から手をうつ取組を行っております。また、学習用端末を活用した食育として、小学校中学校で算数・国語の2教科それぞれ20問に取り組む「はちおうじっ子ミニマム」という端末があり、その学習用端末に食育版を導入しており、食に関する自己管理能力の向上を図ります。また、「食品ロス削減」への取組として、学校給食においても、形や大きさが不揃いのたまねぎなどを加工し、給食に出すという取組を始めたところになります。</p> <p>最後に今後のスケジュールについてです。12月中旬から1月中旬にかけてパブリックコメントを行い、第5回食育推進会議を経て、令和8年3月に次期計画の策定公表を予定しております。以上で、説明を終わります。</p>
座長	事務局の説明が終わりました。ご質問、ご意見等はございますか。
構成員	<p>前回のワークショップの報告を受け、現在、農林課と大学生の「農業体験」の調整を行っているところです。少しでも食育を推進していけるように、新たな取組を実現できるよう協力していきたいと思います。</p>
構成員	資料2「施策の展開」(案)のSDGsマークについてご説明をお願いします。
事務局	<p>SDGsとは、国連サミットで採択された「持続可能な開発のために2030アジェンダ」で採択された、平成28年から令和12年までの国際目標で、17の目標を掲げています。今回の計画(案)では、推進の軸ごとに「作戦」を設定しており、その「作戦」(取組)を実行することにより、それに関連しているSDGsの目標達成に寄与するとし、それぞれの「作戦」ページごとにSDGsマークを記載しております。計画の「総論」の部分で、SDGsについての説明は記載する予定です。</p>
構成員	資料2「施策の展開」(案)のマーク(カーボンニュートラル、DX)は、八王子独自のものですか？どこかで公表されているのでしょうか。
健康づくり推進課長	<p>ご質問のマークについては、ご認識いただいているとおり、八王子市独自のものとなっております。八王子市の最上位計画である「八王子市未来デザイン2040」の中で示しており、市全体で進めていくためにも、第4期食育計画で、カーボンニュートラルやDXに貢献する「作戦」(取組)については、それぞれにマークを記載しております。</p>
構成員	<p>以前、集団給食協議会を行った際に、来年度の健康・食育フェスタへの参加を目指すという話をしていました。集団給食協議会だけでなく、事業所としても、食育に関する活動として、小学校や特別支援学校の児童を受け入れ、職場見学を行ったり、地域の子どもや保護者を対象とし、「ちくわの手作り体験」を行ったりしています。</p> <p>特に今回ご説明いただいた内容に関しての疑問等はありませんが、これまでこの会議に参加させていただいた中で、どのように我々事業者が関わっているのか、いまいちピンときていません。具体的な話を進めていくときに、我々が、もう少し具体的な関わり方ができると良いと思っています。</p>
健康づくり推進課長	<p>第4期計画では、これまでの計画の進捗管理に加え、行政と地域、活動団体、企業が連携し、「共創による食育」を進めたいと考えています。例えば、先ほどご説明させていただいた中で、「朝食の摂取」に関する取組を各主体と協力して推進したいと考えているため、ご参加いただいている皆さんの企業や団体からの助言や提案を受けながら、共に取り組んでいきたいと思っています。</p>
構成員	私たちの方から、課題に対して何ができるか等の話をした方が良いということでしょうか。

健康づくり推進課長	おっしゃる通りです。本市では、行政だけでは課題解決が難しいことに対し、食育に限らず、各分野において民間等から提案をいただいたり、行政側の課題を提示したりする「共創の窓口」(本庁舎3階・経営計画課)を設置しています。第4期の食育計画についても、この窓口を活用し、民間企業や団体の皆さんと共に、これまでとは異なる新しい取組を推進していきたいと考えています。皆さんも何かアイデア等をお持ちであれば、ぜひこの会議や「共創の窓口」を通じて提案していただきたいと考えております。
構成員	八王子市の「農産物直売所マップ」はあるものの、マップの発行部数や取扱状況などが十分に分からず、活用しにくいと感じております。例えば、マップの中で旬の野菜がどこで購入でき、どの施設等で取り扱っているのかといった具体情報が整理されていると良いと思いました。また、学校や保育園の給食献立にも連携できる仕組みがあると、より市民の活用が進むのではないかと考えています。小学校等で子どもに手にとってもらえるように配布や、子どもが家庭で話題にできるような資料の作成、小学生から大学生まで段階的に関われる仕組みがあると、家族との共有や食育への関心の深まりにつながり、行政だけでない取組につながるのではないかと思います。
健康づくり推進課長	ご指摘いただいたとおり、現状は市民の皆様が知りたい情報等を発信できていない面もあり、双方向に情報を共有できる仕組みや協働による取組が必要であると認識しています。
構成員	資料2「施策の展開」ページの「目標値」はいつ設定されるのでしょうか。目標値を数値で示しているのは分かりやすいが、言葉で示している部分については詳しく知りたいと思いました。例えば、学校給食課の取組で「年 1 回」を目標値としているが、全学校で行うのかどうなのか、また、民間との連携に関する取組は、どの民間と何回行うのか等、分かりやすく表記をしたほうが良いと思いました。
事務局	ご指摘いただきありがとうございます。現時点で「目標値」は定められておりませんが、国の食育計画との整合性も図りながら、近日中に設定致します。「目標値」の数値等の書き方については、皆さんに分かりやすい表記で検討しなおしていきたいと思っています。民間との連携は、これから取り組んでいく内容になっておりますので、未定で記載させていただいております。
構成員	これまでの会議でもお伝えしてきましたが、何を求められてるのが明確に分からず、第3期計画までの成果を踏まえた第4期計画の具体的な検討事項や目標を具体的に示していただきたいと感じました。資料についても抽象的な部分が多く、広範囲であるため、小さな取組でも具体的内容で示していただくと良いのではないかと思います。また、これまでの会議等で出された意見を箇条書きで整理し、今後どのように実行されるのかを提示していただけるとありがたいです。また、高齢者への取組に関して、市内には200近くの高齢者サロンがあるため、高齢者の低栄養についての話や、サロンに来ていただく方々にも参加型で、食生活への考え方や、料理を行う活動などがあると良いと思いました。これまでの本会議で出た意見や提案を少しでも取り上げていただきますと嬉しく思います。 さらに、本会議の資料が本日届いたので、十分に目を通すことが難しく、事前に余裕をもって配布していただけると助かります。
座長	資料の送付が遅くなりましたこと、大変申し訳ございません。ご提案いただいたもの全てが実行できるかというのは予算やマンパワーの不足といった関係から難しいところもありますが、皆さまからいただいたご意見やご提案については、他所管にも共有し、連携して取組を進めていけるよう検討して参ります。ありがとうございます。
構成員	資料1「第4期計画の素案(案)」スライド6「(2)施策体系 戦略3」に関して、普段関わっている地域食堂の活動と照らし合わせて考えました。サロンに参加されている高齢者の方々は、地

	<p>域とのつながりや食に関する知識を持っている方が多いと感じています。一方で、サロンに通っておらず、地域との関わりがない方や、食事が十分にとれていない方も多くいらっしゃいます。そのような方々に対して、どのように食育の取組や情報を届けていくかが難しいと感じています。子ども食堂や地域食堂のような、つながりの窓口が増えていくことは望ましいと考えています。ただし、これらの食堂はボランティアの方々によって日々支えられており、人的な負担が大きいのが現状です。そのため、大学や様々な団体と連携しながら取り組みを広げていくことが重要だと感じています。</p> <p>また、「朝ごはん」の摂取については、以前から課題として挙げられているものの、一人ひとりの意識が伴わなければ、市が良い取組を行っても、実際の行動にはなかなかつながらないのではないかと思います。</p> <p>さらに、農産物を購入できる場所や、食べられる場所についても、関連する情報を一つにするなど、体系的に整備していくことが望ましいと感じています。広報をご覧になれる高齢者の方々も多いため、広報の活用を広げることで、高齢者だけでなく、より多くの市民に情報が届くようになるのではないかと思います。</p>
構成員	<p>「八王子産米を食べる日」の取組は、とても良いものだと感じています。保育園の栄養士の方が給食センターに出向き、「かて飯」や「鶏肉の桑焼き」など、八王子ならではのメニューを作って食べる活動に参加し、保育園に持ち帰り、同様の献立を提供しています。情報収集の取組に関して、旬の八王子産農産物がどこで採れるのかといった情報が得られるようになると、さらに良いと思います。</p> <p>また、資料2「施策の展開」に記載されている保育園での取組について、「おにぎりづくり体験」が「年4回以上」と記載されていますが、実際にはそれ以外にも園では、様々な食育活動が行われています。指標として明記されると、全園がその回数を必ず実施しなければならないように感じられてしまう可能性があると思います。幼いころから食育の体験を積み重ねていくことが大切であり、柔軟な取組のあり方が求められると感じています。</p>
事務局	<p>ご指摘ありがとうございます。取組の表記につきましては、所管から回答された取組の内容を掲載しています。表記については所管にも確認し、検討していきたいと思っています。</p>
構成員	<p>先月、近隣の団地にある給食センターが高齢者にも開放され、体力測定や栄養士によるお話などが行われていました。給食センターに行けない高齢者にも配慮した取組が進められており、また、情報共有を早速していただけたことに感謝しており、自分たちの意見も反映された取組が実施されていることを嬉しく感じました。</p> <p>以前のワークショップの報告でも、具体的な取組の提案が挙げられており、今後は本会議でも話し合いを重ねることで、より具体的に計画に落とし込むことができるのではないかと思います。また、「ここに声をかければ進められる」といった連携のきっかけや、自分たちが所属する企業・団体で何ができるかを共有し合うような話し合いを、本会議の場でも行っていけると良いと感じています。</p>
構成員	<p>スライド 10「共創による食育(朝食摂取)」について、高齢者への取組が記載されていない点が気になりました。高齢者に対しても、朝食摂取の促進などの食育の取組を進めていけると良いと感じています。</p> <p>また、寄付金などの資金活用について、企業や団体へのアプローチをすでに行っているのかが気になりました。もしまだ実施されていないのであれば、一つの案として、例えば、最初の企業等への働きかけはボランティアの方々に協力してもらい、その後、行政が主体となって進めていくという流れができると良いのではないかと思います。</p>



事務局	「朝食摂取」に関する資金等の募集活動については、これから取り組んでいく予定です。その内容に関連して、健康づくり推進課の「健康フェスタ・食育フェスタ」のイベントでは、協賛金をいただくなどの形で資金を集めてきた実績があります。また、市の他の所管では、様々な資金の集め方を実施している事例もあり、例えば「スリーボンドスタジアム八王子スコアボード改修プロジェクト」などが挙げられます。
構成員	<p>八王子市は、他の市町村と比べて情報発信や宣伝があまり得意ではないと感じています。例えば、調布市ではピクトグラムを活用し、何を売りにしているのかが一目で分かるような工夫がされています。八王子市でも、情報を一元化して発信できる仕組みがあると良いと思います。</p> <p>質問ですが、八王子産のブルーベリーについての情報発信がどの所管から行われているのでしょうか。情報発信がどの所管から行われているのかが分かりづらく、情報が途切れてしまっている印象があります。市の売れる情報を整理・統合し、効果的にプロモーションしていくことが重要だと感じています。</p>
農林課長	どこで情報発信を行うかについては明確には決まっておりません。八王子産ブルーベリーに関しては、観光課、農林課、学校給食課といった複数の所管がそれぞれ発信を行っており、JA八王子も関わっています。
構成員	情報は市民サービスの一環であると考えています。人から人へ情報をつなげていけるような仕組みがあると良いと思います。現在のように、サイトを開いて「八王子産農産物マップ」の資料につながるだけでなく、そこからさらに詳しい情報へとアクセスできるようなシステムにしていけることが望ましいと感じています。
構成員	食育に関する情報発信については、HP 上に特設ページを設け、そこから関連情報へつながるような仕組みができると良いと思いました。学生などの若者は SNS を活用する傾向がありますが、学生の中には HP を閲覧する人もいるため、広報誌や HP などの情報発信手段を一元化していくことが有効だと思います。現在は、有益な情報が各所に分散しており、必要な情報にたどり着きにくい状況であるため、情報の整理と統合ができていると良いと感じます。
健康づくり推進課長	行政が特定の団体の取組を市のホームページに掲載することについては、公平性等の観点から難しい場合があります。例えば、実行委員会のような組織で、そのホームページで、魅力ある情報発信を行うことは可能であると認識しています。
構成員	<p>食育に関する情報は、専用ページとしてまとめることで、より分かりやすくなると思います。食育関連の情報を紐づけて整理し、共創による食育についても、そのページ上で意見募集や参加の呼びかけができる仕組みにすると良いと感じています。</p> <p>情報の入り口を一本化することで、市民が必要な情報にアクセスしやすくなり、食育の取組がより広く浸透していくのではないかと思います。</p>
構成員	<p>資料2「施策の展開(案)」の「1-4 歯と口から始める作戦」について、「健診」などの表記が統一されていない点が気になりましたので、整理していただけると良いと思います。</p> <p>また、「後期高齢者健診」の対象年齢を広げてほしいと感じています。受診率が低いため、今後はその向上に向けた工夫が必要だと感じました。郵送による案内だけではアプローチが弱く、協力していただける歯科医も少ない状況です。受診者も少ないため、より効果的な方法で働きかけていく必要があると感じました。</p>
座長	本日予定しておりました議事、報告は終了いたしました。議事進行に御協力いただきありがとうございました。それでは、進行を事務局に戻します。
健康づくり推進課長	次第の4つ目、その他に移ります。構成員の皆様から、特にご意見、ご連絡事項等がございましたので、事務局より連絡事項をお願いします。



事務局	<p>本日、お配りしているご意見シートについては、追加でご意見がありましたら、ご記入いただき、10月16日(木)までに、下記に記載のメールアドレスまたは FAX でご提出くださいますようお願いいたします。また、次回の第5回食育推進会議は書面開催を予定しております。</p>
健康づくり推進課長	<p>本日は、お忙しい中ご出席いただき、誠にありがとうございました。</p> <p>皆様にいただいたご意見を踏まえ、第4期食育推進計画の策定作業を進めて参ります。よろしくお願いいたします。</p> <p>以上をもちまして、令和7年度第4回食育推進会議を閉会いたします。</p>